



県歯科医師連盟評議員

## 鈴木 龍

おも  
想い

東日本大震災での福島第一原子力発電所事故を、気が付くと医療安全の立場から考えていた。「原発は安全だ」の言葉には安全への意識が無い。医療に安全が無いよ



うに、どの業界にも安全は存在しない。存在しないのでどのようにしたら安全になるか努力する、その行為が安全につながっていく。

原子力と医療では求められる安全のレベルが違

□□12□□

# 新たな論理 構築の時期

うと考えていたが現実はずうようだ。津波や大地震が想定外という報道が事実としたら、安全に対する認識が無かったか、何かが間違っていたのだから。こうした施設に関しては推進派と反対派の二つに分かれてしまい、その時の状態でどちらか一方の政治が選ばれることがよくある。高圧的な抑制とヒステリックな反対とではどちらも論議にならず、良い構築ができない。

安全に対して論議することは簡単ではない。また事故が起きなければその安全が証明されることもなくコストばかりがかかるお荷物となる。そろそろ日本は、論議をして新しいロジックを構築する時期に来たのかもしれない。もちろん医療においても、である。

最後にこの震災において身元確認にご尽力されている歯科医師会の先生方には感謝である。最終的な身元確認にはDNAカ口腔内硬組織の確認しかない。